

12月8日キリスト降誕祭 東洋列島に向け放送せよ！

全学の学友諸君！ 現在まで我々の耳には金大中氏に対する大法院上告棄却=死刑承認判決の報は届いてはいない。5日前後に秘められていた判決が延期され続いていること——その状況を創り出した諸力の中で、我々の手を含めた全員の様々な決起の力を決して過り評価してはならない。京大学生運動は農学部・文学部アトライキ決起、12・5集会の大結集、そして断固たるバリアード・ストライキによってこの斗争の一翼を最先頭で担い抜いてきたのである。

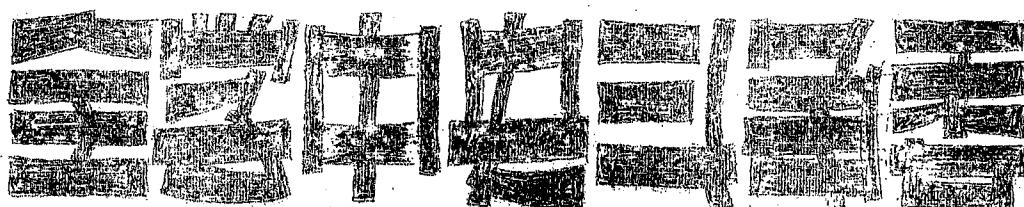
我々は、即時死刑の危険性をはらんだ現情勢が基本的に変化したわけではないことを胆に命じておかねばならない。日帝一斉斗焼による死刑合意体制が存続している限り、今日この時を含めて毎日毎日が、死刑攻撃との熾烈な斗争としてあるのだ。敵は人民の手を横目で見つ一挙決一死刑の機会をうかがい続けている。ここ数日間、大法院での動きに南條するマフコミ報道が異様な沈黙を繰り返している。これは辯士予定期間に死刑阻止の手が盛り上がり恐れ、「上旬死刑予定期の際に斗争が昂揚したことのテツを踏まぬよう神経を尖らせている敵の姿勢の現れ」と考るべきであろう。我々はたとえ一刻でも死刑阻止の手の炎を弱めではならない。

こうした情況下、我々の任務は重大である。それはカーナーには金大中氏を絶対に殺させてはならないからである。韓日民主化斗争の象徴的存在として、また様々な民主勢力の团结の要として彼の果してきした役割の大さを最も良く承知しているからこそ、今は（そして

今も）金大中未殺を民主化斗争最大の懸念としてきたのだ。彼を殺させてしまうこと自体、民主化斗争への極めて大きな打撃となろうし、同時に他の多くの無名の政治犯に対する死刑攻撃への突破口となるからである。

カニには、我々の運動を「金大中救出」のみに終らせてはならないからである。金大中は題に如何なる「決着」がつけられようとも、韓日民主化斗争への支持連帯の立場を断固堅持し不屈に斗争津浦口民衆と共に侵略者＝日本帝国主義との斗争を我々自身の義務として担い抜かねばならない。民主化斗争連帯を具体的・継続的に自らの手としていくこと抜きには、我々の築き上げてきた運動は、無に帰してしまうだろう。

カミには、民主化連帯・死刑阻止の手を、我々自身が先頭に立てけん引していくねばならないからである。排外主義者どもは、日帝の新種民地主義を配と韓日情勢がその必然的隸属であることを隠蔽しようとしている。彼らは金大中死刑阻止の運動を、日帝に対する手としてとらえるのではなく、ただひたすらに「全斗焼の軍事独裁」へと向かうとのみしているのだ。「日本政府に断固たる措置をとらせる要求斗争」「韓日に対する経済制裁」「原状回復こそが金大中氏救出の現実的展望」などといふ言葉の犯罪性もはや明らかだろう。学内に於ては日「大」＝民青・民学同等に代表されるこの排外主義潮流は、日本人层の中に差別排外主義を煽動し、日帝口家権力への幻想をふりまき、日朝両国民の分裂を進めることによって、日帝の



アジア侵略に加担しているのである。京大における原則的大衆運動はかかる排外主義者どもの跋扈を許さず、前進している。左・右は誰が主流派であり、誰が凋落しつつある勢力なのかを如実に示した。

我々全学中央争議委員会は、6日、日帝日蒙権力機構の一端未だ大学の機能を停止する実力斗争、すなわち全DXリストを貫徹し、全ての教養部生諸君に我々のヨイを突きつけ、金太中氏の死刑を許すのか否か、どのヨイを突きつけ、金太中氏の死刑を許すのか否か、死刑を阻止するために如何なるヨイを創出すべきかなどを、我々の身体を張った非合法斗争でもって争ったのが、我々の身体を張った非合法斗争でもって争ったのが、更に、我々は、はっきりと宣言しておこう。ならば、ヨニ・ヨミのヨイに、あるいは6日を上回る実力斗争に、京大学生は断固として起るであろうことを。

全学の学友諸君は、一切の次主体的な形式論議を止め、死刑阻止を如何に具体的に実践するのか、自らの立場性、その態度表明がまさに今、求められているのだ。ということを、しっかりと胆に命じよう。もし、我々を批判しようといふのなら、我々のヨウDXリストを起えるヨイを自ら実践してからにしてくれたまえ。韓日民衆の抗争の上に成り立っている欺説的な、平穡な日常を打破し、全ての授業をクラ計へ、そして金太中氏死刑阻止・韓日民主化争連帶のヨイへと起せよ。共にヨウん。